

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年6月25日

【事業年度】 第60期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

【会社名】 日本電子材料株式会社

【英訳名】 JAPAN ELECTRONIC MATERIALS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大久保 和正

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号

【電話番号】 06(6482)2007

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理部門統括部長 足立 安孝

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号

【電話番号】 06(6482)2007

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理部門統括部長 足立 安孝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(百万円)	12,193	13,014	12,489	14,405	14,416
経常利益	(百万円)	798	557	129	456	1,058
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	788	330	78	307	810
包括利益	(百万円)	1,033	281	98	270	664
純資産額	(百万円)	10,604	10,737	10,490	10,634	11,160
総資産額	(百万円)	15,288	16,572	16,845	17,527	18,055
1株当たり純資産額	(円)	992.23	1,002.51	983.64	1,001.14	1,053.92
1株当たり 当期純利益	(円)	74.45	31.21	7.45	29.00	76.50
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	68.7	64.1	61.8	60.5	61.8
自己資本利益率	(%)	7.87	3.13	0.75	2.92	7.45
株価収益率	(倍)	10.88	14.03	84.30	27.48	8.68
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,655	1,027	738	2,038	1,527
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,631	2,706	1,997	1,131	397
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	273	1,211	180	887	170
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	2,844	2,363	4,881	2,624	3,899
従業員数	(人)	913	977	1,014	1,012	1,015

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第60期の期首から適用しており、第59期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
決算年月		2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高	(百万円)	9,914	10,775	10,724	11,996	12,399
経常利益	(百万円)	843	314	112	333	957
当期純利益	(百万円)	869	204	80	256	819
資本金	(百万円)	983	983	983	983	983
発行済株式総数	(株)	10,604,880	10,604,880	10,604,880	10,604,880	10,604,880
純資産額	(百万円)	8,814	8,869	8,802	8,931	9,644
総資産額	(百万円)	13,009	14,019	14,066	15,214	16,024
1株当たり純資産額	(円)	832.37	837.55	831.25	843.46	910.73
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円)	11 (4)	14 (7)	14 (7)	10 (5)	10 (5)
1株当たり 当期純利益	(円)	82.12	19.30	7.60	24.22	77.36
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	67.8	63.3	62.6	58.7	60.2
自己資本利益率	(%)	10.32	2.31	0.91	2.89	8.82
株価収益率	(倍)	9.86	22.69	82.63	32.91	8.58
配当性向	(%)	13.40	72.54	184.21	41.29	12.93
従業員数	(人)	490	511	527	555	572
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX)	(%)	184.1 (130.7)	103.8 (116.5)	149.6 (133.7)	189.7 (154.9)	162.1 (147.1)
最高株価	(円)	845	870	670	938	1,088
最低株価	(円)	396	360	370	564	540

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第60期の期首から適用しており、第59期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

年月	事項
1960年4月	兵庫県尼崎市口田中字野上(現、兵庫県尼崎市御園1丁目)に日本電子材料株式会社を資本金1,500千円で設立し、ブラウン管用カソード・ヒーター等の電子管部品の製造販売を開始。
1962年6月	東京都板橋区に東京営業所(現、東京営業)を新設。
1970年4月	米国のRucker & Kolls(ルッカー&コールス)社と技術提携し、IC・LSI等の検査用部品プローブカード(CEシリーズ)の製造販売を開始。
1985年11月	熊本県菊池郡七城町(現、熊本県菊池市)に熊本工場(現、熊本事業所)を新設。
1987年5月	米国カリフォルニア州フリーモント市にジェムアメリカ社を設立。
1987年5月	兵庫県尼崎市西長洲本通3丁目(現、兵庫県尼崎市西長洲町2丁目)に本社を移転。
1988年6月	香港九龍にジェム香港社を設立、中国広東省深セン市に深セン工場を新設し、ブラウン管用カソード・ヒーター等の電子管部品の製造を開始。
1993年10月	台湾新竹市にジェム台湾社を設立し、プローブカードの製造販売を開始。
1994年9月	VCシリーズを開発し、製造販売を開始。
1996年5月	熊本工場(現、熊本事業所)に第2工場を増設。
1998年4月	熊本工場(現、熊本事業所)に第3工場を増設。
1998年8月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1998年12月	熊本工場(現、熊本事業所)がISO9001の認証を取得。
1999年10月	ジェム台湾社を竹北市に移転。
2001年7月	VSシリーズを開発し、製造販売を開始。
2003年7月	中国上海市にジェム上海社を設立。
2003年9月	フランス モンブルノ サンマタン市にジェムヨーロッパ社を設立。 ジェムアメリカ社がISO9001の認証を取得。
2004年4月	本社地区、東京営業がISO9001の認証を取得。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2005年2月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
2005年3月	ジャスダック証券取引所への上場を廃止。
2006年3月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場。
2007年8月	VEシリーズを開発し、製造販売を開始。
2008年1月	Mタイププローブカード(MEMS技術を用いたプローブカード)を開発し、製造販売を開始。
2009年5月	MCシリーズを開発し、製造販売を開始。
2009年6月	VTシリーズを開発し、製造販売を開始。
2010年10月	本社地区にクリーンルームを新設。
2011年4月	MLシリーズを開発し、製造販売を開始。
2013年2月	東京営業を神奈川県横浜市に移転。
2015年10月	本社地区及び熊本事業所のクリーンルームを拡張し、Mタイププローブカードの生産能力を強化。
2018年2月	タイ チョンブリ県にジェムタイ社を設立。

3 【事業の内容】

当社グループは、日本電子材料株式会社（当社）と子会社9社により構成されており、半導体検査用部品、電子管部品の開発、製造及び販売を主とした事業活動を行っております。

事業内容と当社及び関係会社の当該事業にかかる位置づけ並びにセグメントとの関連は次のとおりです。

区分	主要製品	主要な会社
半導体検査用部品 関連事業	<カンチレバー型プローブカード> ・Cタイププローブカード （CEシリーズ） <アドバンスプローブカード> ・Vタイププローブカード （VTシリーズ、VSシリーズ、VEシリーズ） ・Mタイププローブカード （MCシリーズ、MLシリーズ）	当社 ジェムアメリカ社 ジェム香港社 ジェム台湾社 ジェムヨーロッパ社 ジェム上海社 ジェムタイ社 ジェム深セン社
電子管部品 関連事業	陰極 フィラメント	当社

（注）1．Cタイププローブカード

プローブ（探針）の形状が力学でいう片持ち梁（Cantilever）の構造を持つタイプです。

2．Vタイププローブカード

プローブ（探針）の形状が垂直型で、主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。

VTシリーズ・・・垂直接触型プローブカード

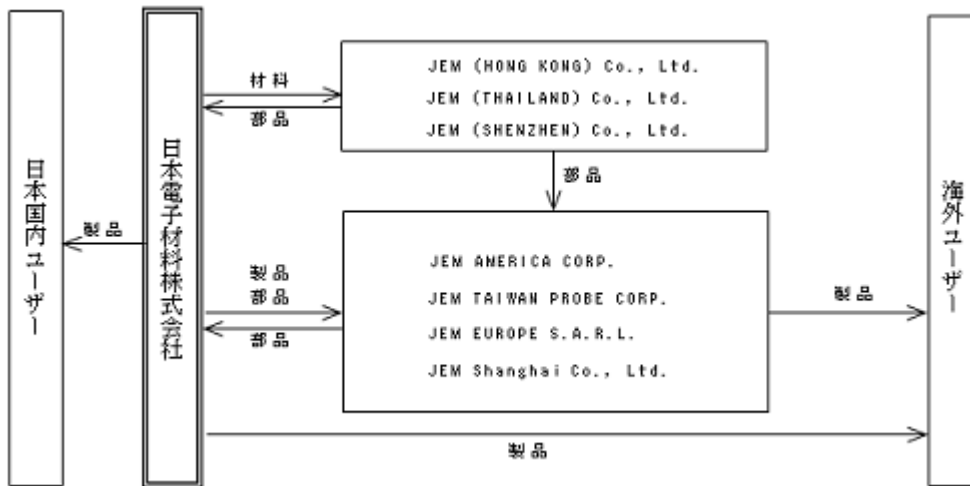
VSシリーズ・・・垂直スプリング接触型プローブカード

VEシリーズ・・・垂直+カンチレバー複合型プローブカード

3．Mタイププローブカード

MEMS（Micro Electro Mechanical Systems）技術を用いたプローブユニットを使用しているタイプです。

[事業系統図]



(注) 関係会社の正式名及び略称は下記のとおりであります。

正式名	略称
JEM AMERICA CORP.	ジェムアメリカ社
JEM (HONG KONG) Co.,Ltd.	ジェム香港社
JEM TAIWAN PROBE CORP.	ジェム台湾社
JEM EUROPE S.A.R.L.	ジェムヨーロッパ社
JEM Shanghai Co.,Ltd.	ジェム上海社
JEM (THAILAND) Co.,Ltd.	ジェムタイ社
JEM (SHENZHEN) Co.,Ltd.	ジェム深セン社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容						
					役員の兼任等		資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	業務提携等	
					当社役員 (名)	当社従業員 (名)					
連結子会社											
ジェムアメリカ社	米国カリフォルニア州	3,650 千米ドル	半導体検査用部品関連事業	100.0	1	1		製品・部品の仕入販売先			
ジェム香港社	中国香港	2,000 千香港ドル	半導体検査用部品関連事業	100.0	1	2		部品の仕入先材料有償支給先	設備の賃貸		
ジェム台湾社	台湾竹北市	40,100 千台湾ドル	半導体検査用部品関連事業	100.0	1	1	貸付金 189百万円	製品・部品の仕入販売先	設備の賃貸		
ジェムヨーロッパ社	仏国モンブルノサンタン市	400 千ユーロ	半導体検査用部品関連事業	100.0		1	貸付金 88百万円	製品・部品の仕入販売先			
ジェム上海社	中国上海市	1,000 千米ドル	半導体検査用部品関連事業	100.0	2	2		製品・部品の仕入販売先			
ジェムタイ社	タイ チョンブリ県	38,000 千タイバーツ	半導体検査用部品関連事業	100.0	1	2	貸付金 194百万円	部品の仕入先材料有償支給先			
ジェム深セン社	中国 深セン市	5,600 千香港ドル	半導体検査用部品関連事業	100.0	1	2		部品の仕入先材料有償支給先			

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. ジェムアメリカ社、ジェム香港社、ジェム台湾社及びジェム上海社は、特定子会社に該当します。

3. 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. ジェム香港社、ジェムヨーロッパ社、ジェム上海社及びジェムタイ社については、売上高（連結会社間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

5. ジェムアメリカ社及びジェム台湾社については、売上高（連結会社間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

ジェムアメリカ社

主要な損益情報等

売上高	2,495百万円
経常利益	161百万円
当期純利益	123百万円
純資産額	1,041百万円
総資産額	1,586百万円

ジェム台湾社

主要な損益情報等

売上高	1,665百万円
経常利益	38百万円
当期純利益	32百万円
純資産額	457百万円
総資産額	1,025百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
半導体検査用部品関連事業	977
電子管部品関連事業	
全社(共通)	38
合計	1,015

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含み、また、執行役員を除く)を記載しております。
2. 全社(共通)として記載の従業員数は、特定のセグメントに区分できない経理部門等全社統括業務に従事しているものであります。
3. 電子管部品関連事業につきましては、外注委託生産のため従業員数を記載しておりません。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
572	39.4	11.2	4,471

セグメントの名称	従業員数(名)
半導体検査用部品関連事業	534
電子管部品関連事業	
全社(共通)	38
合計	572

- (注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から当社外への出向者を除き、当社外から当社への出向者を含み、また執行役員を除く)を記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載の従業員数は、特定のセグメントに区分できない経理部門等全社統括業務に従事しているものであります。
4. 電子管部品関連事業につきましては、外注委託生産のため従業員数を記載しておりません。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題は以下のとおりです。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものです。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、次のとおり経営理念を掲げ、また、経営理念を具体化するための5つからなる経営方針を定めて、企業価値の向上と社会への貢献に取り組んでおります。

経営理念「人類に幸福をもたらす技術の開発と製品化により社会に貢献する」

経営方針「透明性のある企業活動」

「新たな価値の提供」

「グローバルな事業展開」

「利害関係者の尊重」

「地球環境の保護」

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、安定的な収益力を表す指標として連結経常利益率10%以上、また、株主資本利益率（ROE）10%以上を目標としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループの主たる事業分野である半導体市場は、データセンター向け需要の拡大や自動車の電装化の進展等に牽引され、半導体の技術革新や半導体メーカーの生産能力強化が継続される等、引き続き堅調な成長が予想されます。

このような事業環境の中、当社グループといたしましては、海外販売の強化を含めた拡販、製品の付加価値向上及び企業価値の向上を図っており、より詳細には「(4) 会社の対処すべき課題」に記載の通りです。また、これらの取り組みに向けた生産能力の強化を図るために、2020年1月の生産開始を目指して兵庫県三田市への工場新設に取り組んでおります。

(4) 会社の対処すべき課題

市場の要求に応える製品の開発とサービスの強化

中長期的に需要が見込まれるDRAM及びNAND型フラッシュメモリ向け製品の更なる性能向上、納期短縮、原価低減を行い、製品競争力を高め、拡販に取り組んでまいります。また、次世代半導体向けプローブカードの開発を加速させ、ビジネスチャンスの拡大を図ります。

海外販売の強化

海外の半導体市場は、アジアを中心に着実な成長を遂げております。また、製造を専門に行うファウンドリや、自社工場を持たず製品の企画や設計のみを行うファブレスメーカーの台頭等、半導体の生産は世界規模で分業化が進んでおります。当社グループは、海外拠点のネットワークを活かした販売活動の充実を図るとともに、日本から各国拠点へのリソース投入や一層の技術支援により、海外販売の強化を推進します。

付加価値向上への取り組み

技術革新やVA活動による原価低減や品質向上によって、付加価値の向上を図ります。

経営基盤の更なる強化

為替変動や緊急時における対応等、リスクマネジメントの一層の高度化を目指し、経営基盤の強化に努めるとともに、コーポレート・ガバナンスの更なる強化を実施し、企業価値の向上に努めます。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のある主要なリスクは以下のとおりです。なお、文中における将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。が、リスクの全てを網羅したのではなく、事業等のリスクは以下に限定されるものではありません。

(1) 半導体需要の影響

当社グループの売上の大半は半導体検査用部品であるプローブカードであり、半導体の回路毎に設計・製造される消耗品としての特性を有しています。このため半導体需要の低迷は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) 特定顧客への販売について

半導体ビジネスは、投資コストの増加や需給バランスの不安定さ等の影響により、収益性の向上を図ることが容易ではなくなった結果、半導体メーカーの再編が進み、大手半導体メーカーによる寡占化も進みました。当社グループもそれらの影響を受け、売上高における特定顧客が占める比率が高まっております。それら特定顧客の設備投資の動向や生産計画の変更等は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(3) 製品価格変動の影響

半導体メーカーは、利益と競争力を維持するためコスト削減を徹底しており、プローブカードに対しても厳しい価格要請が継続しています。今後も販売価格がさらに下落した場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 為替変動の影響

当社グループは、一層の海外販売の強化を行う方針であります。外貨建ての取引については、為替予約等のリスクマネジメントを行っておりますが、為替相場の変動が当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(5) 新製品開発等による影響

半導体の技術革新はめざましく、当社におきましても既存製品の技術改良並びに新製品開発を積極的に進めています。しかしながら、当社の技術改良並びに新製品開発の投入に遅れ等が生じた場合、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(6) 製品の品質に係わる影響

当社グループでは、品質の重要性を認識し、厳正な品質管理基準に従い製品の製造及び販売を行っています。しかしながら、予期せぬ製品の欠陥、不良等の品質上の問題が発生した場合には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(7) 災害による影響

地震や火災等の予測不可能な自然災害や事故災害が発生した場合、当社グループの設備等が損害を受ける可能性があります。また、その修復費用や生産の一時停止等が発生し、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。加えて災害の影響等により、当社グループが所在する地域において、電力供給の制限等があった場合にも、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の業況判断については製造業を中心に慎重さがみられたものの、個人消費の持ち直しや雇用情勢の改善が進むなかで、全体としては緩やかな回復傾向となりました。海外経済につきましても、通商問題の動向や中国経済の先行きに対する不透明感が高まったものの、緩やかな回復基調は維持されました。

当社グループの主たる事業分野である半導体市場は、中長期的には緩やかな成長を予想する一方で、足元ではデータセンターに関する投資への慎重姿勢が強まったことやスマートフォン需要の鈍化に加え、半導体価格の急激な下落により、半導体メーカーが設備投資計画の見直しを図る等、市場動向の変化が激しい状況で推移いたしました。

このような事業環境の中、当社グループといたしましては、中長期的な成長が見込まれる市場向けに拡販を押し進めました。その結果、売上面につきましては、ロジックIC向けについては軟調に推移しましたが、メモリーIC向けにつきましては、NAND型フラッシュメモリー向けを中心に堅調に推移しました。利益面につきましては、売上構成の変化や、コスト削減の推進により前連結会計年度を大きく上回りました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高14,416百万円（前連結会計年度比0.1%増）、営業利益1,005百万円（前連結会計年度比95.4%増）、経常利益1,058百万円（前連結会計年度比132.0%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、関係会社株式売却による特別利益を計上したこと等により、810百万円（前連結会計年度比163.8%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

a．半導体検査用部品関連事業

ロジックIC向けは、自動車用半導体向けの回復の遅れにより軟調に推移しました。メモリーIC向けにつきましては、顧客需要に応えることにより、堅調に推移しました。利益面につきましては、売上構成の変化や、コスト削減の推進により前連結会計年度を大きく上回りました。

以上により、売上高14,160百万円（前連結会計年度比0.1%増）、セグメント利益1,878百万円（前連結会計年度比42.2%増）となりました。

b．電子管部品関連事業

電子管部品関連事業につきましては、売上高255百万円（前連結会計年度比1.1%減）、セグメント利益13百万円（前連結会計年度比5.8%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、1,275百万円増加し、当連結会計年度末には3,899百万円となりました。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、1,527百万円（前連結会計年度は2,038百万円の資金の減少）となりました。

これは主として、売上債権の増加414百万円、関係会社株式売却益162百万円、法人税等の支払131百万円、たな卸資産の増加102百万円等による減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益1,001百万円、減価償却費707百万円、仕入債務の増加479百万円等による増加要因があったことによります。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は、397百万円（前連結会計年度は1,131百万円の資金の減少）となりました。

これは主として、定期預金の払戻による収入319百万円、連結範囲変更に伴う子会社株式の売却収入127百万円等による増加要因があったものの、有形固定資産の取得による支出625百万円、定期預金の預入による支出121百万円、貸付けによる支出55百万円等による減少要因があったことによります。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度における財務活動による資金の増加は、170百万円（前年同期比80.8%減）となりました。

これは主として、長期借入金の返済による支出1,053百万円、配当金の支払額106百万円等による減少要因があったものの、長期借入れによる収入1,330百万円による増加要因があったことによります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
半導体検査用部品関連事業	14,133	99.1
電子管部品関連事業	255	98.9
合計	14,389	99.1

(注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
半導体検査用部品関連事業	13,470	90.7	1,912	73.5
電子管部品関連事業	235	95.6	41	67.4
合計	13,705	90.8	1,953	73.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
半導体検査用部品関連事業	14,160	100.1
電子管部品関連事業	255	98.9
合計	14,416	100.1

(注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
フラッシュアライアンス(有) 1			1,730	12.0
フラッシュフォワード(合) 1			1,461	10.1
三菱電機トレーディング㈱ 2	2,157	15.0		
三星電子㈱ 2	2,026	14.1		

1 前連結会計年度のフラッシュアライアンス(有)及びフラッシュフォワード(合)につきましては、売上高総額に対する割合が10%未満のため記載を省略しております。
2 当連結会計年度の三菱電機トレーディング㈱及び三星電子㈱につきましては、売上高総額に対する割合が10%未満のため記載を省略しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、必要と思われる見積りは、合理的な基準に基づいて実施しております。

詳細につきましては、「第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」の項目をご参照願います。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a . 財政状態

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ528百万円増加し、18,055百万円となりました。

これは主として、有形固定資産合計が645百万円、電子記録債権が150百万円、預け金が150百万円減少いたしました。現金及び預金が1,211百万円、受取手形及び売掛金が216百万円、仕掛品が91百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ2百万円増加し、6,895百万円となりました。

これは主として、短期借入金が377百万円、電子記録債務が365百万円、役員退職慰労引当金が86百万円減少いたしました。設備電子記録債務が313百万円、支払手形及び買掛金が244百万円、未払費用が152百万円、一年以内返済長期借入金が119百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し、11,160百万円となりました。

これは主として、為替換算調整勘定が144百万円減少いたしました。利益剰余金が704百万円増加したこと等によるものであります。

b . 経営成績

(売上高)

半導体検査用部品関連事業につきましては、ロジックIC向けは、自動車用半導体向けの回復の遅れにより軟調に推移したものの、NAND型フラッシュメモリー向け等、中長期的な成長が見込まれる市場向けに拡販を推し進めた結果、前連結会計年度並みとなりました。電子管部品関連事業につきましては、前連結会計年度より微減となり、当連結会計年度の売上高は14,416百万円(前連結会計年度比0.1%増)となりました。

(営業利益)

半導体検査用部品関連事業につきましては、売上構成の変化や、コスト削減の推進により前連結会計年度を大きく上回りました。電子管部品関連事業につきましては、前連結会計年度を下回る結果となったものの、半導体検査用部品関連事業の増益に伴い、当連結会計年度の営業利益は営業利益1,005百万円(前連結会計年度比95.4%増)となりました。

(経常利益)

当連結会計年度の経常利益につきましては、主として営業利益の増加により、1,058百万円(前連結会計年度比132.0%増)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、関係会社株式売却による特別利益を計上したこと等により、810百万円(前連結会計年度比163.8%増)となりました。

以上の結果、当連結会計年度における連結経常利益率は7.3%、株主資本利益率(ROE)は7.2%となりました。

c. 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2[事業の状況]2[事業等のリスク]」の項目をご参照願います。

d. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

(キャッシュ・フロー)

当社グループは、当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローとして397百万円が減少しております。しかしながら、営業活動によるキャッシュ・フローとして1,527百万円、財務活動によるキャッシュ・フローとして170百万円が増加したことにより、当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、1,275百万円増加し、当連結会計年度末には3,899百万円(前連結会計年度比48.60%増)となりました。

なお、詳細につきましては、「第2[事業の状況]3[経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析](1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」の項目をご参照願います。

(資金需要)

当社グループは、顧客満足の一層の向上に向け、今後も製造設備の増強並びに最先端技術に対する研究活動及び研究開発投資を継続的に実施してまいります。

(資金調達)

当社グループは、安定的な支払能力を確保するため、内部資金、金融機関からの借入及び社債の発行、設備のリース化等の活用により、資金調達の多様化と安定した資金繰りを実現しております。なお、外部からの資金調達につきましては、安定的で低利息を目標とし、経済や金融情勢を加味しながら、長期もしくは短期のバランスのとれた調達を実施しております。

4 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、経営理念である「人類に幸福をもたらす技術の開発と製品化により社会に貢献する」のもと、エレクトロニクス分野の新製品・新技術に対応して、半導体検査用部品関連の研究開発活動を推進しております。

その活動の主な内容は、半導体回路の微細化や高速化に向けた、MEMS技術を用いたプローブの性能向上や基板の開発、プローブカードの組立技術の開発や加工技術の向上、次世代プローブカードの開発推進や既存製品の性能向上等であり一層の強化を図っております。この研究開発費の総額は、当連結会計年度において、1,104百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、急速な技術革新に対処するために半導体検査用部品関連事業を中心に981百万円の設備投資を実施いたしました。

半導体検査用部品関連事業においては、当社を中心として、新製品・新技術の開発、検査能力の向上及び分析力の強化を図るため977百万円の設備投資を実施いたしました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	工具、 器具及び 備品	合計	
熊本事業所 (熊本県菊池市)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 製造設備・ 研究開発設備	163	769	43 (11,841)		82	1,055	352
熊本事業所 (熊本県菊池市)		統括業務設備	85		28 (7,874)		3	120	9
本社 (兵庫県尼崎市)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 製造設備	372	545	235 (1,311)		17	1,171	139
本社 (兵庫県尼崎市)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 研究開発設備	12	15	35 (196)		3	69	31
本社 (兵庫県尼崎市)		統括業務設備	46		112 (624)		11	165	29
三田工場 (兵庫県三田市)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 製造設備	101		184 (7,615)			286	

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	工具、 器具及び 備品	合計	
ジェム アメリカ社	本社・工場 (米国カリフォル ニア州)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 製造設備	2	50			4	57	46
ジェム 台湾社	本社・工場 (台湾竹北市)	半導体 検査用部品 関連事業	プローブカード 製造設備	1	182			2	186	83

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 上記の他、主要な賃借及びリース設備として、次のものがあります。

提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	従業員数(名)	年間賃借料 又はリース料 (百万円)
東京営業 (横浜市港北区)	半導体検査用 部品関連事業	東京営業 事務所(賃借)	12	7

在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	従業員数 (名)	年間賃借料 又はリース料 (百万円)
ジェム アメリカ社	本社・工場 (米国カリフォルニア州)	半導体検査用 部品関連事業	本社・工場 社屋、土地 (オペレーティ ング・リース)	46	30

(注) 賃借している土地面積は、2,019.43㎡であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、需要予測、生産計画、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設の計画は次のとおりであり、また、当連結会計年度末現在における重要な設備の除却等の計画はありません。

重要な設備の新設

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金 調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出 会社	三田工場 (兵庫県三田市)	半導体検査用 部品関連事業	プローブカード 生産設備	227		自己資金 及び 借入金	2018年 7月	2020年 1月	(注3)
提出 会社	三田工場 (兵庫県三田市)	半導体検査用 部品関連事業	プローブカード 生産設備	183		自己資金 及び 借入金	2018年 9月	2020年 1月	(注3)
提出 会社	熊本事業所 (熊本県菊池市)	半導体検査用 部品関連事業	プローブカード 生産設備	120		自己 資金	2019年 8月	2019年 12月	(注2)
提出 会社	三田工場 (兵庫県三田市)	半導体検査用 部品関連事業	プローブカード 生産施設	1,668	333	借入金	2018年 3月	2019年 9月	(注3)

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 生産性の向上のため、生産能力の増加を把握することが困難であり記載を省略しております。

3. 完成後の生産能力の増加については、算定することが困難であり記載を省略しております。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,604,880	10,604,880	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株でありま す。
計	10,604,880	10,604,880		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2005年5月18日	2,447,280	10,604,880		983		1,202

(注) 1株を1.3株に株式分割したものであります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		21	39	34	36	5	5,377	5,512	
所有株式数 (単元)		19,979	3,337	14,706	2,376	34	65,449	105,881	16,780
所有株式数 の割合(%)		18.87	3.15	13.89	2.24	0.03	61.82	100.00	

(注) 自己株式15,559株は、「個人その他」に155単元及び「単元未満株式の状況」に59株を含めて記載してあります。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
(有)大久保興産	大阪市北区天満1丁目5番2号	1,266	11.96
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8-11	625	5.90
大久保 和 正	神戸市東灘区	481	4.55
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	403	3.80
大久保 英 正	東京都大田区	385	3.64
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	309	2.91
大久保 昌 男	神奈川県中郡	290	2.73
古 山 陽 一	兵庫県尼崎市	260	2.45
野村信託銀行(株)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	202	1.90
日本電子材料社員持株会	兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号	188	1.77
計		4,412	41.66

(注) 1. 上記の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は以下のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	625千株
日本マスタートラスト信託銀行(株)	403千株

2. 2019年4月1日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、(株)三菱UFJフィナンシャル・グループが2019年3月25日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2019年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	309,200	2.92
三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	442,340	4.17
三菱UFJ国際投信(株)	東京都千代田区有楽町1丁目12番1号	29,300	0.28
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	東京都千代田区丸の内2丁目5番2号	62,700	0.59
計		843,540	7.95

3. 2018年6月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、大和証券投資信託委託(株)が2018年6月15日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2019年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
大和証券投資信託委託(株)	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	400,900	3.78
大和証券(株)	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	42,258	0.40
(株)大和ネクスト銀行	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	40,000	0.38
計		483,158	4.56

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,572,600	105,726	
単元未満株式	普通株式 16,780		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	10,604,880		
総株主の議決権		105,726	

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本電子材料株式会社	兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号	15,500		15,500	0.14
計		15,500		15,500	0.14

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	103	81,237
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価格の総額(円)	株式数(株)	処分価格の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	15,559		15,559	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題として認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当の継続を基本とし、業績に応じて積極的な株主還元を行う事を基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本とし、また、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって定めることができる。」旨を定款に定めています。

以上の方針に基づき、当期の剰余金の配当につきましては、1株当たり中間配当5円、期末配当は普通配当5円とし年間10円といたしました。

内部留保金につきましては、設備投資、海外事業投資、研究開発投資等に活用し、さらなる事業基盤の拡大、強化に努めてまいり所存であります。

基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの配当額 (円)
2018年10月26日 取締役会決議	52	5
2019年5月13日 取締役会決議	52	5

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「日本電子材料株式会社は、人類に幸福をもたらす技術の開発と製品化により社会に貢献する。」という経営理念に基づき、成長し続ける創造型企業を目指しております。

これを具現化するためには、企業の健全性確保、経営の透明性等に加え、社会からの信頼が必要不可欠であり、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題と認識し、その実現に努めております。

また、コーポレート・ガバナンスを充実させる事により企業価値が増大し、株主、顧客、従業員等のステークホルダーの皆様へ利益還元を果たすことが可能であると考えております。さらに、株主の皆様への速やかな情報開示が公平で透明な経営を行う上での重要な要素と考えております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

a . 企業統治体制の概要

当社は、監査等委員会制度を採用しており、コーポレート・ガバナンス体制の主たる機関である取締役会、監査等委員会及び会計監査人の設置のもと、業務執行機関である執行役員会及び経営会議等と、内部監査及び内部統制・コンプライアンス担当を設置しております。

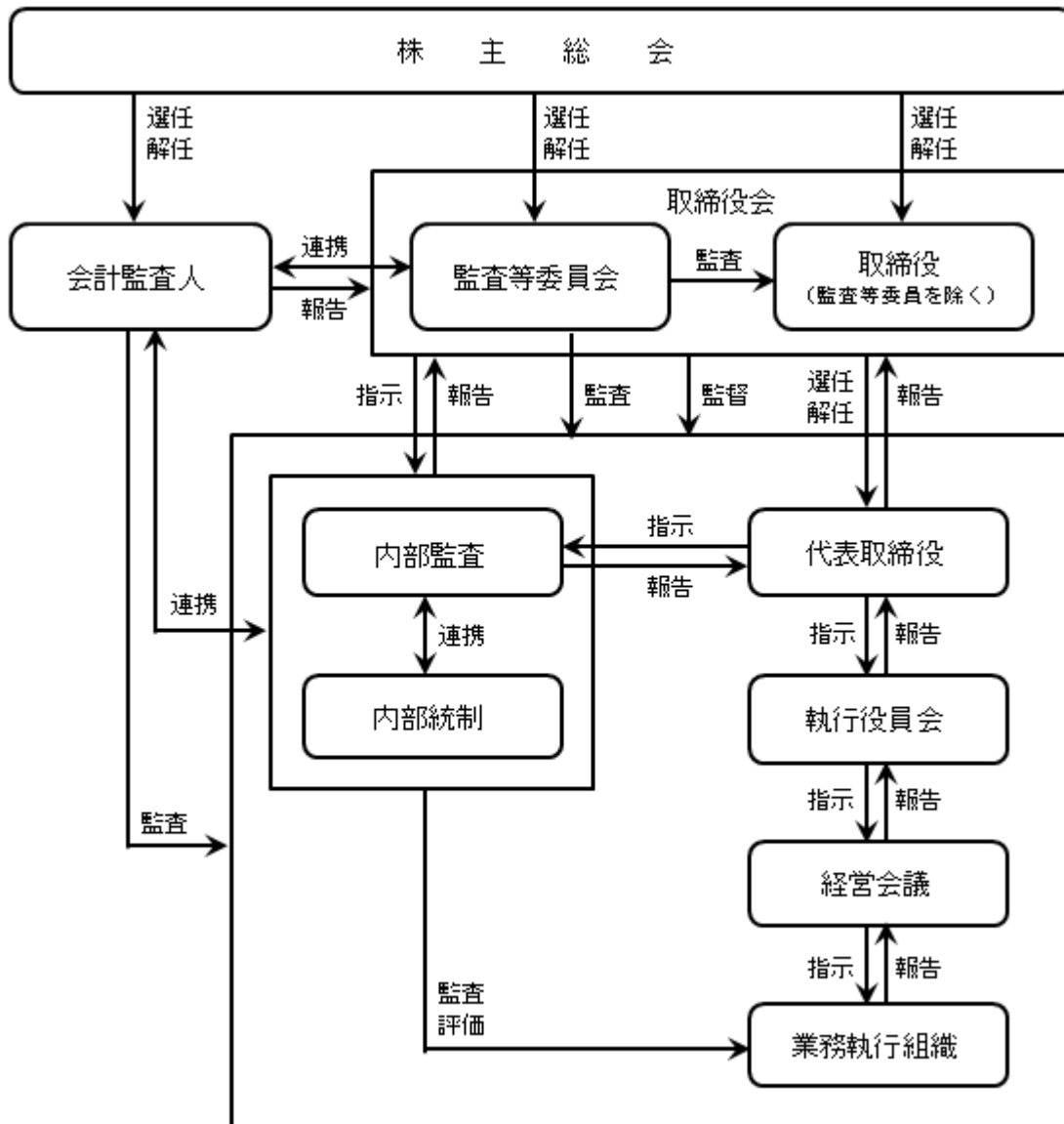
取締役会は、7名の取締役（内、4名は社外取締役）で構成され、取締役社長 大久保和正を議長として、原則として毎月1回の定時取締役会の他、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会は、法令、定款又は取締役会規則等に定められた事項について意思決定を行うとともに、取締役会規則等に定められた事項について報告を受け、各取締役の職務執行状況を監視、監督しております。

監査等委員会は、社外取締役2名を含む3名の監査等委員で構成され、常勤監査等委員 竹原克尚を議長として、原則として毎月1回の監査等委員会を開催するとともに、取締役会及び執行役員会等の業務執行機関の職務執行状況について監査を行っております。また、常勤の監査等委員1名を選定することにより、日常的に各種会議へ出席し、業務執行状況を確認し、また重要な情報の収集及び報告の受領等を行っております。

執行役員会は、7名の執行役員で構成され、社長執行役員 大久保和正を議長として、原則として毎月1回の定時執行役員会の他、必要に応じて臨時執行役員会を開催しております。執行役員会は、取締役会が定めた経営方針のもと、執行役員会規則等に定められた事項について意思決定を行うとともに報告を受けており、経営会議等へ指示を行っております。

内部監査は、代表取締役に直属しており、必要に応じて監査等委員会あるいは内部統制・コンプライアンス担当と連携のうえ、当社のリスク管理状況及びコンプライアンス状況について監査しており、内部統制・コンプライアンス担当は、当社のリスク及びコンプライアンスについて網羅的・総括的に管理しております。

なお、当社のコーポレート・ガバナンスの体制は次のように図示され、また、取締役会、監査等委員会及び執行役員会の構成につきましては、「(2)「役員の状況」 役員一覧」をご参照願います。



(注) 1 矢印は、選任、解任、監査、報告、指示等を表しております。
 2 内部監査は代表取締役の直轄に属しております。

b. 現状の体制を採用している理由

当社は、企業規模にあった機動的な機関構成・組織運営を行うとともに、経営監視機能の客観性及び中立性を確保するため、現状の体制を採用しております。

企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

イ. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は、以下のとおりの「内部統制システムの整備に関する基本方針」を整備するとともに、内部統制システムを絶えず評価し改善することにより、実効性のある内部統制システムの整備に努めます。

) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- A. 取締役が法令及び定款に則って行動するよう徹底する。
- B. 業務執行にあたっては、取締役会、執行役員会及び経営会議他の各種会議体で、総合的に検討したうえで意思決定を行う。
- C. 企業倫理、コンプライアンス及びリスク管理に関する重要課題と対応について適切に審議する。
- D. コンプライアンス担当責任者は管理部門統括担当執行役員とし、当社のリスク並びにコンプライアンスに関する統括責任者とする。また、コンプライアンス担当責任者は、内部統制・コンプライアンス担当を設置する。

) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に従い、取締役の職務の執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下文書等という）に記録し、保存する。取締役は、常時これらの文書等を閲覧できる。

) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- A. 予算管理制度等により収益や費用を適切に管理するとともに、職務権限等の規程による所定の権限及び責任に基づいて業務及び予算の執行を行う。重要案件については、取締役会及び執行役員会への付議基準等を定めた規程に基づき、承認後執行を行う。
- B. 資金の流れや管理の体制に関する規程に基づき、適正な財務報告の確保に取り組む。
- C. 安全、品質、環境等のリスク並びにコンプライアンスについて、各担当部門が、各種管理規程を策定し、管理を行う。
- D. 内部統制・コンプライアンス担当は、当社のリスク並びにコンプライアンスに関して網羅的・総合的に管理する。
- E. 内部監査は、当社のリスク管理状況を監査し、その結果を定期的にコンプライアンス担当責任者及び取締役会に報告する。

) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- A. 取締役及び使用人が共有する全社的な目標を定め、この浸透を図るとともに、中期経営計画を策定する。
- B. 取締役会、執行役員会及び経営会議は、中期経営計画を具体化するため、中期経営計画に基づき、毎期、部門毎の業績目標と予算を設定する。研究開発、設備投資、新規事業については、原則として、中期経営計画の目標達成への貢献等を勘案して、その優先順位を決定する。
- C. 業績は、ITを積極的に活用したシステムにより月次で迅速に管理会計としてデータ化し、担当取締役及び取締役会、執行役員会並びに経営会議に報告する。
- D. 取締役会、執行役員会及び経営会議は、毎月、この結果をレビューし、部門毎に目標未達の要因の分析、その要因を排除・低減する改善策を報告させ、必要に応じて目標を修正する。
- E. Dの議論を踏まえ、各部門を担当する執行役員及び部門長は、各部門が実施すべき具体的な施策及び権限配分を含めて業務遂行体制が効率的となるよう改善する。

-) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- A. 各組織の業務分掌を明確化するとともに、継続的な改善を図る土壌を維持する。
 - B. コンプライアンス体制に係るコンプライアンス基本規則を策定し、使用人が法令・定款及び社会規範を順守した行動をとるための社員心得を定める。
 - C. 内部監査は、内部統制・コンプライアンス担当と連携のうえ、コンプライアンスの状況を監査する。これらの活動を定期的に取り締役会及び監査等委員会に報告する。
 - D. 内部通報規程を策定し、法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報の通報・相談を行う手段として監査等委員会等の内部通報先に報告する「コンプライアンス・ホットライン」を設置・運営する。監査等委員会等の内部通報先より連絡を受けた内容を調査し、再発防止策をコンプライアンス担当責任者と協議のうえ決定し、全社的に再発防止策を実施する。
 - E. 財務報告の信頼性を確保するために、法令等に従い、財務報告に係る内部統制を整備、運用し、それを評価する体制を構築する。
-) 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
- 当社及び子会社は業務の適正を確保するため、内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われる体制を構築する。また、子会社の財務及び経営を管理する部門と事業活動を管理する部門は協業し、子会社の位置付けに応じた多面的な管理を図る。これらの部門は、子会社との定期及び随時の情報交換を通じて子会社の業務の適正性と適法性を確認する。
- A. 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
子会社の経営上の重要事項に関しては、当社と子会社における管理規程に基づき当社に報告するとともに、当社の取締役会又は執行役員会において審議する。また子会社における内部統制の構築を目指し、子会社全体の内部統制に関する担当部門は、当社の内部統制・コンプライアンス担当とする。
 - B. 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
当社は、子会社の財務、安全、品質、環境、災害等のリスク管理体制の整備を推進する。また、重大なリスクについては、速やかに当社に報告することを求めるとともに、当社と子会社における管理規程に基づき、当社の取締役会又は執行役員会において審議する。
 - C. 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
子会社の経営の自主性を尊重し、且つ経営の効率化を追求するため、相互の権限と責任を明確にし、当社は取引上の諸問題について積極的な指導を図る。また、子会社の取締役に対して、現場からの的確な情報に基づき、経営方針を迅速に決定するとともに、業務分掌を定め、それに基づく適切な権限委譲を行い、業務が効率的に行われるよう求める。
 - D. 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
子会社の内部統制・コンプライアンス担当責任者は、業務執行の適正を確保する内部統制の確立と運用の権限と責任を有する。コンプライアンス担当責任者は、コンプライアンスに関する体制の整備を推進し、当社はその状況について定期的な点検を実施する。
-) 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する体制及び当該使用人に対する監査等委員会の指示の実効性の確保に関する事項
- A. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人の独立性に関する事項
監査等委員会の職務を補助すべき使用人を置くことを監査等委員会から求められた場合、監査等委員会の業務補助のため会計及び業務に精通した当該使用人を置くこととし、人事権については監査等委員会に有り、取締役（監査等委員である取締役を除く。）から独立させる。
 - B. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
当該使用人はその職務に関して監査等委員会の指示のみに服し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）等からの指示を受けない。
-) 取締役及び使用人が監査等委員会に報告に関する体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 取締役または使用人は監査等委員会に対して、法定の事項に加え当社及び子会社に重大な影響をおよぼす事項、内部監査の実施状況、「コンプライアンス・ホットライン」の通報状況及びその内容をすみやかに報告する体制を整備する。また通報をしたことを理由に不利益な取扱いを行うことを規程により禁止する。

) 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員の職務の執行について生ずる費用については、監査等委員会が必要と考える適正な予算を設けている他、前払を含めその職務の執行について生ずる新たな費用の負担の求めがあった場合にはすみやかに対応する。

) その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- A．監査等委員は、執行役員会に出席する他、社内の重要な会議に出席することができ、また意見等は会社として十分に尊重する。
- B．監査等委員会は、必要に応じて重要な決裁書類等をいつでも閲覧または謄写できる。
- C．監査等委員会からの取締役または使用人の職務の執行状況の聴取に対しては、積極的に協力する。
- D．監査等委員会は、代表取締役、内部監査、会計監査人とそれぞれ必要に応じて意見交換会を開催する。

ロ．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、以下のとおり反社会的勢力排除に向けて対応します。

) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社及び子会社は、反社会的勢力の排除に向けて反社会的勢力との取引関係、その他いかなる関係も持たない。不当要求については、警察当局、顧問弁護士等と連携し反社会的勢力に対して毅然とした態度で対応する。

) 反社会的勢力排除に向けた整備状況

- A．当社は、主要拠点に反社会的勢力へ対応する部署を設け、不当要求防止責任者を設置している。また、反社会的勢力による不当要求に対しては直ちに対応統括部署に報告する体制も整備している。
- B．既に加盟している兵庫県企業防衛対策協議会での研修や情報交換を行うとともに、兵庫県警察本部暴力団対策課から情報提供や指導を受ける。
- C．反社会的勢力の関係者と思慮される者からの働きかけや苦情を受けた場合、兵庫県企業防衛対策協議会事務局に照会し情報やアドバイスを受けるとともに、所轄警察署との関係強化を図る。

b．リスク管理体制の整備の状況

当社は、前述の体制の整備を行い、取締役会又は執行役員会において継続的に経営上のリスクについて検討しております。また、必要に応じて、社内諸規程、個々の業務及び業務フローの見直しを実施し、業務の適正を確保するための体制の実効性を向上させるように努めております。

また、内部監査は、内部統制・コンプライアンス担当と連携のうえ、コンプライアンスの状況を監査した結果、法令・定款及び社内規程等に違反している事項がないかを検証しております。監査等委員会は、代表取締役、内部監査、会計監査人との意見交換会の開催や社内の重要な会議への出席等を通じて、業務執行の状況やコンプライアンスについての重大な違反等が無いよう監視しております。

c．子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

上記 a イ) に記載したとおりです。

責任限定契約の内容の概要

当社と、取締役（業務執行取締役であるものを除く。）とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に規定される最低責任限度額としております。

取締役の定数

当社の取締役の定数は、取締役（監査等委員であるものを除く。）10名以内、監査等委員である取締役4名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨並びに累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

また、取締役の解任決議については、会社法第341条の規定により、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行われます。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

a. 剰余金の配当等の決定

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨、定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、資本政策及び配当政策を機動的に行うことを目的とするものであります。ただし、株主総会決議による剰余金の処分権限を排除するものではありません。

b. 自己の株式取得

当社は、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策を行うため、取締役会の決議によって自己の株式を取得する事ができる旨定款に定めております。

c. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって取締役（取締役であった者を含む。）の当社に対する損害賠償責任を、法令が定める範囲で免除できる旨定款に定めております。これは、取締役が、職務を遂行するにあたり期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

会社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

a. 利益還元の機動的な実施について

利益配当金について

2019年3月期は、1株当たり10円（中間配当5円、期末配当5円）を実施いたしました。

b. 株主総会に参加しやすい環境について

第60回(2019年3月期)定時株主総会は、集中日を避けた2019年6月25日（火曜日）に開催いたしました。

c. ビジネスレポートについて

年2回ビジネスレポート（JEM TODAY）を発行し、株主様宛にお送りしています。

d. 取締役会について

取締役会は、この1年間に18回開催いたしました。

e. 監査等委員会について

監査等委員会は、この1年間に12回開催いたしました。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性7名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(千株)
代表取締役社長 社長執行役員 営業統括担当 営業統括部長	大久保 和正	1955年3月17日生	1985年4月 当社入社 1985年5月 当社取締役 2003年9月 ジェムヨーロッパ社代表取締役会長 2004年4月 ジェムアメリカ社代表取締役会長 2005年4月 ジェム台湾社代表取締役会長 ジェム上海社代表取締役会長 2005年6月 当社常務取締役 2008年4月 当社代表取締役副社長 2011年6月 当社取締役副会長 ジェム香港社代表取締役会長 2013年6月 当社取締役副社長 2017年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員 2018年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員 営業統括担当 営業統括部長(現任)	(注4)	481
専務取締役 専務執行役員 管理部門統括担当 (コンプライアンス担当) 管理部門統括部長	足立 安孝	1951年9月17日生	1998年1月 当社入社 2004年7月 当社経理シニアマネージャー 2008年4月 当社管理部門副統括部長 2009年1月 ジェム上海社取締役社長(現任) 2009年6月 当社取締役 管理部門統括部長 2017年6月 当社常務取締役 常務執行役員 管理部門統括担当 (コンプライアンス担当) 管理部門統括部長 2019年6月 当社専務取締役 専務執行役員 管理部門統括担当 (コンプライアンス担当) 管理部門統括部長(現任)	(注4)	21
取締役	井上 廣志	1954年12月16日生	1975年4月 三菱電機㈱入社 2000年6月 同社 パワーデバイス事業統括部 品質保証部長 2004年4月 同社 パワーデバイス製作所 パワーデバイス第一部長 2008年4月 同社 パワーデバイス製作所 営業部長 2011年6月 三菱電機ロジスティクス㈱入社 同社 取締役電子事業部長 2018年6月 同社 顧問 2019年6月 当社取締役(現任)	(注4)	
取締役	中本 大介	1963年11月22日生	1986年4月 大洋㈱入社 1989年4月 Unique Motor Co.,Ltd. 副社長 1997年8月 ㈱タクマ入社 2003年11月 Siam Takuma Co.,Ltd. 社長 2014年2月 ㈱タクミナ入社 2014年4月 同社 営業本部 海外営業部長 2014年7月 同社 営業本部 海外営業部長 兼 TACMINA KOREA Co.,Ltd. 代表理事 2016年4月 同社 執行役員 営業本部 海外営業部長 兼 TACMINA KOREA Co.,Ltd. 代表理事 兼 TACMINA USA CORP. 代表取締役社長 (現任) 2019年6月 当社取締役(現任)	(注4)	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 監査等委員 (常勤)	竹原 克尚	1943年10月 18日生	1967年4月	三菱電機(株)入社	(注5)	4
			1984年12月	三菱電機セミコンダクタアメリカ社出向		
			1987年1月	三菱電機(株)北伊丹製作所アセンブリ技術部		
			1999年6月	TOWA(株)入社		
			2006年9月	当社入社		
			2010年5月	当社顧問		
			2010年6月	当社常勤監査役		
			2017年6月	当社取締役(常勤監査等委員)(現任)		
取締役 監査等委員	濱田 幸和	1955年4月 9日生	1986年2月	税理士登録 濱田税理士事務所設立 濱田税理士事務所所長(現任)	(注5)	1
			1996年6月	当社監査役		
			2004年6月	同 退任		
			2007年5月	(株)プロセスサポート設立 同社 代表取締役社長(現任)		
			2009年6月	当社監査役		
			2017年6月	当社取締役(監査等委員)(現任)		
取締役 監査等委員	吉田 博之	1952年10月 26日生	1977年4月	三菱電機(株)入社	(注5)	
			2003年4月	同社 半導体事業本部 半導体業務統括部 生産支援部長		
			2003年10月	同社 半導体・デバイス事業本部 半導体・デバイス業務統括部 生産システム部長		
			2008年4月	三菱電機ロジスティクス(株) 入社 同社 電子事業部副事業部長		
			2008年6月	同社 取締役 電子事業部長		
			2011年6月	同社 常任監査役		
			2015年6月	同社 常任監査役 退任		
			2017年6月	当社取締役		
			2019年6月	当社取締役(監査等委員)(現任)		
計						508

- (注) 1. 取締役井上廣志氏及び中本大介氏は、社外取締役であります。
2. 取締役濱田幸和氏及び吉田博之氏は、監査等委員である社外取締役であります。
3. 当社の監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
- 議長 竹原克尚 委員 濱田幸和 委員 吉田博之
4. 2019年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から1年間。
5. 2019年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。
6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠監査等委員の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
西井 博生	1964年 5月19日生	1987年4月	監査法人朝日新和会計社入社	(注)	
		1990年3月	公認会計士登録		
		2001年9月	西井博生公認会計士事務所開所		
		2004年9月	なぎさ監査法人代表社員(現任)		
		2004年12月	税理士法人なぎさ総合会計事務所代表社員(現任)		
		2008年6月	当社補欠監査役		
		2017年6月	当社補欠監査等委員(現任)		

(注) 補欠監査等委員の任期は、就任した時から1年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでであります。

7. 当社は、取締役会が決定した経営方針にもとづく業務執行の効率化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は7名で、前記の取締役兼執行役員2名の他、下記の執行役員を選任しております。

職名	氏名	担当
副社長執行役員	呉 泰燁	品質統括部長 (品質統括担当)
常務執行役員	坂田 輝久	MEMS統括部長 (MEMS統括担当)
上席執行役員	森 隆一郎	本社MEMS工場長
執行役員	藤井 昭彦	生産統括部長 (生産統括担当)
執行役員	澤井 守康	製品技術統括部長 (製品技術統括担当)

社外役員の状況

当社の社外取締役は4名であります。

1) 社外取締役と当社との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係

a. 社外取締役（監査等委員であるものを除く。）

井上廣志氏は、半導体業界に精通しており、また、経営等のマネジメントを通じた豊富な経験と見識を有しており、それらを当社の経営に反映しております。また、同氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者であった経歴はなく、独立性を有していると考え、社外取締役として選任しております。

中本大介氏は、海外事業を含む経営等のマネジメントを通じた豊富な経験と見識に基づいて、当社のコーポレート・ガバナンスの強化に寄与しております。また、同氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者であった経歴はなく、兼職先である㈱タクミナ、TACMINA KOREA Co.,Ltd.及びTACMINA USA CORP.と当社との間には利害関係もないため、独立性を有していると考え、社外取締役として選任しております。

b. 監査等委員である社外取締役

濱田幸和氏は、濱田税理士事務所の所長を兼務しており、主に税理士としての専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査等委員会において必要な助言・提言を適宜行っております。なお、同氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者であった経歴がなく、兼職先である濱田税理士事務所及び㈱プロセスサポートと当社との間に取引関係がないことから、独立性を有していると考え、監査等委員である社外取締役として選任しております。

吉田博之氏は、半導体業界等のマネジメント及び三菱電機ロジスティクス㈱の常任監査役を通じた豊富な経験と見識に基づいて、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査等委員会において必要な助言・提言を適宜行っております。なお、同氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者であった経歴がなく、独立性を有していると考え、監査等委員である社外取締役として選任しております。

2) 社外取締役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

高い独立性と、専門的な経験及び見識に基づく客観的かつ適切な監視、監督により、当社のコーポレート・ガバナンスを向上する機能及び役割を担っております。

3) 社外取締役の提出会社からの独立性に関する基準又は方針

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準については、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会に出席し、内部監査、監査等委員会監査及び会計監査の状況並びに内部統制部門からの各種報告を受けるとともに、社内の重要会議に出席し、経営監督を行う役割を担っております。また、監査等委員である社外取締役は、監査等委員会に出席するとともに内部監査と連携を密にして、監査の実効性を高めております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会の状況

監査等委員会は、3名（常勤監査等委員1名、非常勤監査等委員2名）で構成されており、監査等委員の内1名は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。監査等委員会は定期的開催し、監査方針に基づいて、ヒアリング等を行い、会計監査人及び内部監査と連携を密にして、内外子会社を含めた業務執行の監査を行っております。また、監査等委員は執行役員会及び経営会議等の社内の重要な会議に出席し、意見を述べるようにしております。

内部監査の状況

a. 内部監査

内部監査につきましては、内部監査担当部署を設け専任の担当者1名により業務を遂行しております。代表取締役の直属である内部監査では、内部監査規程と、代表取締役の承認のもと期初に定める内部監査実施計画に基づき、業務の有効性・効率性の検証である業務監査、法令・規程への準拠性の検証であるコンプライアンス監査、財産の有効性と実在性の検証である財務報告の信頼性等についての整備・運用状況を日常的に監視するとともに、問題点の把握・指摘・改善勧告と改善へのフォローアップを行っております。

b. 内部監査、監査等委員会及び会計監査人との相互連携並びに内部統制部門との関係等

内部監査、監査等委員会及び会計監査人並びに内部統制は、必要に応じて打ち合わせを行い、内部統制、監査状況等について情報交換を行い、相互の連携を密にすることによりコンプライアンス体制を確立し、リスク回避に万全を期しております。また、財務報告に係る内部統制評価の監査を会計監査人が行なうとともに、内部監査は内部統制・コンプライアンス担当と連携の上、コンプライアンスの状況を監査し、定期的に監査等委員会に報告しております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

黒川 智哉

勢志 恭一

c. 監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士3名、会計士試験合格者等5名、その他3名となります。

d. 監査法人の選定方針と理由等

監査法人の選定及び評価に際しては、当社のグローバルな取引に対して効率的な監査業務を実施することができる一定の規模と世界的なネットワークを持つこと、会計や監査への知見のある人材が豊富であること、監査期間及び監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査日数及び具体的な監査実施要項並びに監査実績などにより総合的に判断します。

監査等委員会は、監査法人から、監査法人の概要、監査の実施体制等、監査報酬の見積額についての書面を入手し、面談、質問等を通じて選定しております。

監査等委員会は、会計監査人の職務の遂行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき当該議案を株主総会に提出します。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員の全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

e. 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員会は、監査法人に対して評価を行っており、同法人による会計監査は、従前から適正に行われていることを確認しております。

また、監査等委員会は監査法人の再任に関する確認決議をしており、その際には日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実施指針」に基づき、総合的に評価しております。

なお、内部監査、監査等委員会監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係につきましては、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等(3) 監査の状況 内部監査の状況 b. 内部監査、監査等委員会及び会計監査人との相互連携並びに内部統制部門との関係等」に記載のとおりであります。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	27		27	
連結子会社				
計	27		27	

当社及び当社連結子会社における非監査業務に基づく報酬につきましては、前連結会計年度、当連結会計年度ともに該当事項はありません。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（KPMGメンバーファーム）に属する組織に対する報酬（a.を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社		0		
連結子会社				
計		0		

当社における非監査業務の内容は、税務アドバイザーサービスであります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬については、会計監査人から提出の見積提案をもとに、監査計画、監査内容、監査日数等の要素を勘案して検討し、監査等委員会の同意を得て決定する手続きを実施しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積もりなどが当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判定を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

業務執行取締役の報酬は、取締役会が定める内規に基づく固定報酬と業績連動報酬により構成されており、取締役会の決議により決定されます。固定報酬は、当社の経営環境や職責を勘案のうえ役位ごとに定めております。業績連動報酬は、経営方針である「第2「事業の状況」1.経営方針、経営環境及び対処すべき課題等(2)目標とする経営指標」記載の連結経常利益率を指標とし、連結経常利益率に応じて概ね固定報酬に対して0～175%の範囲となります。なお、当事業年度における業績連動報酬に係る指標である連結経常利益率は、目標の10%以上に対して実績は7.3%でした。

監査等委員を除く非業務執行取締役の報酬は、職責を勘案のうえ取締役会の決議により、また、監査等委員である取締役の報酬は、監査等委員会の決議によりそれぞれ決定されます。

なお、報酬限度額は、2017年6月27日開催の第58回定時株主総会において、取締役（監査等委員を除く。）は年額200百万円以内（ただし、使用人分給与は含まず、うち社外取締役分は30百万円以内）、また、取締役（監査等委員）は年額30百万円以内としてそれぞれ決議いただいております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の 総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役 員の員数(名)
		固定報酬	業績連動 報酬	ストック オプション	
取締役 (監査等委員及び社外取締 役を除く)	47	46	1		2
監査等委員である取締 役(社外取締役を除く)	16	16			1
社外役員	14	14			4

(注) 1. 当社は、2016年6月24日開催の第57回定時株主総会終結の時をもって、取締役の役員退職慰労金制度を廃止しております。

2. 取締役の報酬の内、賞与につきましては該当事項はありません。

役員ごとの連結報酬等の総額

1億円以上を支給している役員はありませんので、記載を省略しております。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動または配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当する投資株式は保有しておりません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表 計上額の合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表 計上額の合計額 (百万円)
非上場株式	3	60	3	60
非上場株式以外の株式	2	4	2	5

区分	当事業年度		
	受取配当金の合計額 (百万円)	売却損益の合計額 (百万円)	評価損益の合計額 (百万円)
非上場株式	2		
非上場株式以外の株式	0		2

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報のうち、改正府令による改正後の財務諸表等規則第8条の12第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

(1) 会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、公益財団法人財務会計基準機構の行うセミナーに参加等しております。

(2) 将来の指定国際会計基準の適用に備え、経理部門を中心に積極的に外部セミナーに参加するとともに、情報収集及び調査分析に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,168	3,379
受取手形及び売掛金	5,607	5,824
電子記録債権	811	660
有価証券	135	142
製品	248	197
仕掛品	727	819
原材料及び貯蔵品	1,696	1,623
預け金	896	746
その他	206	266
貸倒引当金	12	6
流動資産合計	12,487	13,653
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,489	2,346
減価償却累計額	1,455	1,478
建物及び構築物(純額)	*1 1,034	*1 868
機械装置及び運搬具	6,514	6,056
減価償却累計額	4,682	4,367
機械装置及び運搬具(純額)	*1 1,832	1,689
工具、器具及び備品	3,053	2,690
減価償却累計額	2,848	2,525
工具、器具及び備品(純額)	204	165
土地	*1 1,160	*1 639
建設仮勘定	186	410
有形固定資産合計	4,419	3,773
無形固定資産		
その他	121	135
無形固定資産合計	121	135
投資その他の資産		
投資有価証券	65	64
関係会社株式	*2 63	*2 63
繰延税金資産	187	197
その他	183	168
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	499	493
固定資産合計	5,039	4,402
資産合計	17,527	18,055

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	679	923
電子記録債務	1,334	968
設備電子記録債務	141	454
短期借入金	*1 377	
1年内返済予定の長期借入金	*1 962	*1 1,082
未払金	221	198
未払費用	368	520
その他	272	324
流動負債合計	4,356	4,472
固定負債		
長期借入金	*1 2,298	*1 2,360
役員退職慰労引当金	86	
退職給付に係る負債	54	
その他	96	62
固定負債合計	2,536	2,422
負債合計	6,893	6,895
純資産の部		
株主資本		
資本金	983	983
資本剰余金	1,202	1,202
利益剰余金	8,379	9,083
自己株式	15	15
株主資本合計	10,549	11,253
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	1
為替換算調整勘定	49	94
その他の包括利益累計額合計	52	93
非支配株主持分	32	
純資産合計	10,634	11,160
負債純資産合計	17,527	18,055

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	14,405	14,416
売上原価	*2 10,597	*2 10,204
売上総利益	3,808	4,212
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	785	789
退職給付費用	20	17
役員退職慰労引当金繰入額	3	
減価償却費	41	37
研究開発費	*1 1,144	*1 1,104
その他	1,298	1,257
販売費及び一般管理費合計	3,294	3,206
営業利益	514	1,005
営業外収益		
受取利息	12	12
材料屑売却益	9	14
固定資産売却益	5	28
その他	13	22
営業外収益合計	41	77
営業外費用		
支払利息	23	11
支払手数料	33	
為替差損	37	10
その他	4	1
営業外費用合計	99	23
経常利益	456	1,058
特別利益		
退職給付制度改定益	87	
関係会社株式売却益		162
特別利益合計	87	162
特別損失		
早期希望退職関連費用	170	
固定資産除却損		*3 59
支払補償金		*4 160
特別損失合計	170	220
税金等調整前当期純利益	373	1,001
法人税、住民税及び事業税	121	206
法人税等調整額	6	14
法人税等合計	115	191
当期純利益	258	810
非支配株主に帰属する当期純損失()	48	
親会社株主に帰属する当期純利益	307	810

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	258	810
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	19	144
退職給付に係る調整額	31	
その他の包括利益合計	*1 11	*1 145
包括利益	270	664
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	312	664
非支配株主に係る包括利益	41	

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	983	1,202	8,199	15	10,369
当期変動額					
剰余金の配当			127		127
親会社株主に帰属する 当期純利益			307		307
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			180	0	180
当期末残高	983	1,202	8,379	15	10,549

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2	75	31	46	74	10,490
当期変動額						
剰余金の配当						127
親会社株主に帰属する 当期純利益						307
自己株式の取得						0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	0	25	31	5	41	36
当期変動額合計	0	25	31	5	41	143
当期末残高	2	49		52	32	10,634

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	983	1,202	8,379	15	10,549
当期変動額					
剰余金の配当			105		105
親会社株主に帰属する 当期純利益			810		810
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			704	0	704
当期末残高	983	1,202	9,083	15	11,253

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2	49		52	32	10,634
当期変動額						
剰余金の配当						105
親会社株主に帰属する 当期純利益						810
自己株式の取得						0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	0	144		145	32	177
当期変動額合計	0	144		145	32	526
当期末残高	1	94		93		11,160

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	373	1,001
減価償却費	816	707
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	206	
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	3	
貸倒引当金の増減額（ は減少）	3	5
受取利息及び受取配当金	15	14
支払利息	23	11
有形固定資産売却損益（ は益）	5	28
有形固定資産廃棄損	0	39
売上債権の増減額（ は増加）	2,090	414
たな卸資産の増減額（ は増加）	381	102
その他の流動資産の増減額（ は増加）	29	71
仕入債務の増減額（ は減少）	532	479
その他の流動負債の増減額（ は減少）	119	189
関係会社株式売却益		162
その他	7	25
小計	1,929	1,655
利息及び配当金の受取額	15	14
利息の支払額	24	11
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	100	131
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,038	1,527

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	0	1
有形固定資産の取得による支出	1,073	625
有形固定資産の売却による収入	6	41
関係会社株式の取得による支出	63	
貸付けによる支出	7	55
貸付金の回収による収入	5	4
定期預金の預入による支出	342	121
定期預金の払戻による収入	393	319
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入		*2 127
その他の支出	60	94
その他の収入	12	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,131	397
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	81	
短期借入金の返済による支出	85	
長期借入れによる収入	1,906	1,330
長期借入金の返済による支出	878	1,053
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	126	106
リース債務の返済による支出	9	
財務活動によるキャッシュ・フロー	887	170
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	24
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,256	1,275
現金及び現金同等物の期首残高	4,881	2,624
現金及び現金同等物の期末残高	*1 2,624	*1 3,899

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 7社

連結子会社の名称

ジェムアメリカ社

ジェム香港社

ジェム台湾社

ジェムヨーロッパ社

ジェム上海社

ジェムタイ社

ジェム深セン社

上記のうち、ジェム深セン社については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました同和JEM株式会社は、所有株式の全てを売却したため連結の範囲から除いております。

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

JEMCO Co.,Ltd. JEM SE ASIA Pte.Ltd.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社はいずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社の名称

JEMCO Co.,Ltd. JEM SE ASIA Pte.Ltd.

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

a. 製品・仕掛品

プローブカード等の受注生産品は主として個別法、その他見込生産品は主として月別総平均法

b. 原材料

主として移動平均法

c. 貯蔵品

主として最終仕入原価法

デリバティブ取引により生じる債権及び債務

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

a. リース資産以外の有形固定資産

当社は定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法）を採用し、連結子会社は、所在地国の会計基準の規定に基づき定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	4年～50年
機械装置及び運搬具	2年～10年
工具、器具及び備品	2年～15年

b. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（リース契約に残価保証の取決めがある場合は、当該残価保証額）とする定額法を採用しております。

無形固定資産

a. リース資産以外の無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、当社及び連結子会社は、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

b. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債並びに収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理
税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

(当社)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(在外子会社)

会計基準等の名称	概要	適用予定日
「リース」 (IFRS第16号)	リース会計に関する会計処理を改訂	2020年3月期より適用予定
「リース」 (米国会計基準 ASU第2016-02号)	リース会計に関する会計処理を改訂	2020年3月期より適用予定

なお、当該会計基準等の適用による影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに税効果会計関係注記を変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」が288百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が170百万円増加しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が118百万円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「固定負債」の「繰延税金負債」は重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「固定負債」の「繰延税金負債」に表示していた126百万円(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更前)、「その他」87百万円は、「その他」96百万円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

* 1 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
建物及び構築物	558百万円	433百万円
機械装置及び運搬具	72百万円	百万円
土地	888百万円	382百万円
計	1,519百万円	815百万円

担保に係る債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
短期借入金	365百万円	百万円
1年内返済予定の長期借入金	247百万円	483百万円
長期借入金	255百万円	391百万円
計	869百万円	875百万円

* 2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
関係会社株式	63百万円	63百万円

(連結損益計算書関係)

* 1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
一般管理費	1,144百万円	1,104百万円

* 2 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。(洗替え処理による戻入額含む)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上原価	195百万円	65百万円

* 3 固定資産除却損の内容は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	百万円	37百万円
解体撤去費用	百万円	22百万円

* 4 当社子会社であるジェム香港社において、同社の来料加工廠に就労する従業員のジェム深セン社への転籍あるいは退職にともない支出した、従業員への補償金の支給額であります。

(連結包括利益計算書関係)

* 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	0百万円	1百万円
組替調整額	百万円	百万円
税効果調整前	0百万円	1百万円
税効果額	0百万円	0百万円
その他有価証券評価差額金	0百万円	0百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	19百万円	144百万円
為替換算調整勘定	19百万円	144百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	百万円	百万円
組替調整額	45百万円	百万円
税効果調整前	45百万円	百万円
税効果額	13百万円	百万円
退職給付に係る調整額	31百万円	百万円
その他の包括利益合計	11百万円	145百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	10,604			10,604

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,426	30		15,456

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 30株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月27日 定時株主総会	普通株式	74	7	2017年3月31日	2017年6月28日
2017年10月24日 取締役会	普通株式	52	5	2017年9月30日	2017年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	52	5	2018年3月31日	2018年6月27日

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	10,604			10,604

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,456	103		15,559

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 103株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月11日 取締役会	普通株式	52	5	2018年3月31日	2018年6月27日
2018年10月26日 取締役会	普通株式	52	5	2018年9月30日	2018年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	52	5	2019年3月31日	2019年6月11日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- * 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	2,168百万円	3,379百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	439百万円	225百万円
預け金	896百万円	746百万円
現金及び現金同等物	2,624百万円	3,899百万円

* 2 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

株式の売却により同和JEM株式会社が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに株式の売却価額と売却による収入は次のとおりです。

同和JEM株式会社	
流動資産	509百万円
固定資産	857百万円
流動負債	1,101百万円
固定負債	207百万円
非支配株主持分	32百万円
評価差額	13百万円
未実現利益	15百万円
為替換算調整勘定	56百万円
子会社株式売却益	162百万円
<hr/>	
連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却価額	129百万円
連結子会社の現金及び現金同等物	1百万円
<hr/>	
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	127百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

有形固定資産

半導体検査用部品関連事業におけるプローブカード研究開発設備及びプローブカード生産設備であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（リース契約に残価保証の取決めがある場合は、当該残価保証額）とする定額法を採用しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	55	43
1年超	60	14
合計	115	58

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、安定的な支払能力を確保するため、内部資金、金融機関からの借入、設備のリース化等の活用により、資金調達の多様化と安定した資金繰りを実現しております。なお、外部からの資金調達については、安定的で低利息を目標とし、経済や金融情勢を加味しながら、長期もしくは短期のバランスのとれた調達を実施しております。一時的な余資については、短期的かつ安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。デリバティブは、外貨建債権債務の為替変動リスクを回避するために利用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約等を利用してヘッジしております。有価証券及び投資有価証券は、その他有価証券に区分される株式等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、並びに電子記録債務は、原則として1年以内の支払期日です。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。借入金等については、安定的な支払能力の確保を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で9年後であります。

デリバティブ取引は、外貨建債権債務の為替変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引及び直物為替先渡取引であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について、主に営業部門内で主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関に限定し取引を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、定期的に把握された時価等が取締役に報告されております。

デリバティブ取引については、取引権限や限度額等を定めた社内規程に基づいて行っており、取引実績及び取引残高は取締役会に報告されております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部門が適時に資金繰計画を作成・更新することで流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度末における営業債権のうち、35.92%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注)2を参照ください。)

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,168	2,168	
(2) 受取手形及び売掛金	5,607	5,607	
(3) 電子記録債権	811	811	
(4) 預け金	896	896	
(5) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	141	141	
資産計	9,625	9,625	
(1) 支払手形及び買掛金	679	679	
(2) 電子記録債務	1,334	1,334	
(3) 設備電子記録債務	141	141	
(4) 短期借入金	377	377	
(5) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	3,261	3,257	3
負債計	5,652	5,648	3
デリバティブ取引 ()	(1)	(1)	

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,379	3,379	
(2) 受取手形及び売掛金	5,824	5,824	
(3) 電子記録債権	660	660	
(4) 預け金	746	746	
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	146	146	
資産計	10,757	10,757	
(1) 支払手形及び買掛金	923	923	
(2) 電子記録債務	968	968	
(3) 設備電子記録債務	454	454	
(4) 短期借入金			
(5) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	3,442	3,434	8
負債計	5,788	5,780	8
デリバティブ取引()	(0)	(0)	

() デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権、並びに(4) 預け金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 設備電子記録債務、並びに(4) 短期借入金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)

元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
非上場株式	60	60
関係会社株式	63	63

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(5)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

また、関係会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

(注) 3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	2,168	
受取手形及び売掛金	5,607	
電子記録債権	811	
預け金	896	
合計	9,483	

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超
現金及び預金	3,379	
受取手形及び売掛金	5,824	
電子記録債権	660	
預け金	746	
合計	10,610	

(注) 4. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	377					
長期借入金	962	882	580	294	541	
合計	1,340	882	580	294	541	

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金						
長期借入金	1,082	809	527	774	113	134
合計	1,082	809	527	774	113	134

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	5	2	3
(2) 債券			
国債、地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
小計	5	2	3
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式			
(2) 債券			
国債、地方債等			
社債			
その他			
(3) その他	135	135	
小計	135	135	
合計	141	138	3

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	3	1	2
(2) 債券			
国債、地方債等			
社債			
その他			
(3) その他			
小計	3	1	2
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	0	0	0
(2) 債券			
国債、地方債等			
社債			
その他			
(3) その他	142	142	
小計	143	143	0
合計	146	144	2

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

(単位:百万円)

区分	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	直物為替先渡取引 売建 米国ドル	120		1	1
	合計	120		1	1

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格によっております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

区分	取引の種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	直物為替先渡取引 売建 米国ドル	20		0	0
	合計	20		0	0

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格によっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定拠出年金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金等を支払う場合があります。

なお、当社が過去に加入していた尼崎機械金属厚生年金基金は、2016年3月30日付で厚生労働大臣の許可を得て解散し、2018年7月24日付で清算終了いたしました。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	302百万円	54百万円
勤務費用	13百万円	百万円
利息費用	百万円	百万円
数理計算上の差異の発生額	百万円	百万円
退職給付の支払額	11百万円	百万円
確定拠出制度への移行に伴う減額	253百万円	百万円
その他	4百万円	54百万円
退職給付債務の期末残高	54百万円	百万円

(注) 簡便法を採用した制度を含みます。

(2)退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	54百万円	百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	54百万円	百万円
退職給付に係る負債	54百万円	百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	54百万円	百万円

(注) 簡便法を採用した制度を含みます。

(3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	13百万円	百万円
利息費用	百万円	百万円
数理計算上の差異の費用処理額	百万円	百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	13百万円	百万円

(注) 1. 簡便法を採用した制度を含みます。

2. 上記の退職給付費用以外に、早期退職に伴う割増退職金として、前連結会計年度において170百万円を特別損失に計上しております。また、退職給付制度改定に伴い発生した利益として、前連結会計年度において87百万円を特別利益に計上しております。

(4)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
数理計算上の差異	45百万円	百万円

3. 確定拠出制度

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
確定拠出制度への要拠出額	82百万円	86百万円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
(1) 繰延税金資産		
未払事業税等	6百万円	15百万円
未払費用	39百万円	33百万円
未実現たな卸資産売却益	17百万円	4百万円
たな卸資産評価損等	204百万円	241百万円
退職給付に係る負債	13百万円	-百万円
役員退職慰労引当金	33百万円	12百万円
投資有価証券評価損	80百万円	72百万円
繰越欠損金(注)2	662百万円	298百万円
その他	105百万円	108百万円
繰延税金資産 小計	1,164百万円	787百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)2		289百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		131百万円
評価性引当額小計(注)1	805百万円	421百万円
繰延税金資産 合計	359百万円	366百万円
繰延税金負債との相殺	173百万円	169百万円
繰延税金資産の純額	187百万円	197百万円
(2) 繰延税金負債		
在外子会社の留保利益	125百万円	122百万円
土地建物圧縮積立金	43百万円	43百万円
その他	11百万円	4百万円
繰延税金負債 合計	180百万円	170百万円
繰延税金資産との相殺	173百万円	169百万円
繰延税金負債の純額	8百万円	0百万円

(注) 1. 評価性引当額が384百万円減少しております。この減少の主な内容は、当社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額が260百万円減少したことによります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

当連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)			150	20	126		298百万円
評価性引当額			142	20	126		289百万円
繰延税金資産			8				(b) 8百万円

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金297百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産8百万円を計上しております。当該繰延税金資産8百万円は、当社における税務上の繰越欠損金の残高277百万円及び当社連結子会社における税務上の繰越欠損金の残高20百万円(法定実効税率を乗じた額)の一部について認識したものであります。当該繰延税金資産を計上した税務上の繰越欠損金は、主に当社において2012年3月期に税引前当期純損失を33百万円、2013年3月期に税引前当期純損失を195百万円計上したことにより生じたものであり、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
 主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
国内の法定実効税率		30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目		0.1%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目		0.2%
住民税均等割等		0.7%
評価性引当額		13.5%
連結子会社との税率差異等		4.2%
在外子会社の留保利益		0.0%
税額控除		3.6%
その他		0.5%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率		19.1%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等の意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品の種類、性質、製造方法等の共通性に基づき、「半導体検査用部品関連事業」及び「電子管部品関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

各事業の主要な製品は次のとおりであります。

事業区分	主要製品
半導体検査用部品関連事業	<カンチレバー型プローブカード> Cタイププローブカード CEシリーズ <アドバンスプローブカード> Vタイププローブカード VTシリーズ(垂直接触型プローブカード) VSシリーズ(垂直スプリング接触型プローブカード) VEシリーズ(垂直+カンチレバー複合型プローブカード) Mタイププローブカード MCシリーズ MLシリーズ
電子管部品関連事業	陰極、フィラメント

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であり、報告セグメントの利益は、営業利益であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	半導体検査用 部品関連事業	電子管部品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,147	258	14,405		14,405
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	14,147	258	14,405		14,405
セグメント利益	1,321	14	1,335	821	514
その他の項目					
減価償却費	795		795	20	815
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,131		1,131	11	1,142

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。
- (2) 減価償却費の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る償却額であります。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る設備投資額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはしていないため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	連結財務 諸表計上額 (注2)
	半導体検査用 部品関連事業	電子管部品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,160	255	14,416		14,416
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	14,160	255	14,416		14,416
セグメント利益	1,878	13	1,892	887	1,005
その他の項目					
減価償却費	685		685	22	707
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	977		977	3	981

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。
 - (2) 減価償却費の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る償却額であります。
 - (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る設備投資額であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはしていないため記載しておりません。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	合計
8,035	5,390	781	198	14,405

(注) 1．売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2．アジアのうち、韓国は2,033百万円です。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	合計
3,078	1,282	54	3	4,419

(注) アジアのうち、韓国は880百万円です。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱電機トレーディング(株)	2,157	半導体検査用部品関連事業
三星電子(株)	2,026	半導体検査用部品関連事業

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	合計
8,441	4,921	805	248	14,416

(注) 1．売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2．アジアのうち、台湾は1,454百万円です。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	合計
3,266	444	58	4	3,773

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
フラッシュアライアンス(有)	1,730	半導体検査用部品関連事業
フラッシュフォワード(合)	1,461	半導体検査用部品関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員及びその近親者

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
重要な子会社 の役員	徐 永錫			同和JEM株式会 社 代表取締役	所有	資金の借入	資金の借入	81	短期借入金	11
				同和電子工業(株) 代表取締役			資金の返済	69		
							利息の支払 (注2)	0	未払費用	0

(注) 取引条件及び取引条件の決定方法

- 同和電子工業(株)は、同和JEM株式会社役員 徐永錫が100%所有しております。
- 資金の借入及び利息の支払については、同和JEM株式会社が同和電子工業(株)と行った取引であり、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,001.14円	1,053.92円
1株当たり当期純利益	29.00円	76.50円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	307	810
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	307	810
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,589	10,589

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	377			
1年以内に返済予定の長期借入金	962	1,082	0.27	
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く。)	2,298	2,360	0.26	2020年4月 ~ 2028年3月
合計	3,638	3,442		

(注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における1年ごとと5年超の返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	809	527	774	113	134

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	3,418	7,455	10,842	14,416
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	693	944	1,245	1,001
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	569	778	1,030	810
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	53.79	73.53	97.34	76.50

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益又は 1株当たり 四半期純損失() (円)	53.79	19.75	23.81	20.84

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	910	1,769
受取手形	14	19
売掛金	*1 5,338	*1 4,871
電子記録債権	811	660
有価証券	111	117
製品	33	36
仕掛品	623	737
原材料及び貯蔵品	1,337	1,270
関係会社短期貸付金	33	129
未収入金	*1 98	*1 328
預け金	896	746
その他	*1 129	*1 105
貸倒引当金	9	2
流動資産合計	10,329	10,790
固定資産		
有形固定資産		
建物	*2 834	*2 773
構築物	9	9
機械及び装置	1,360	1,329
工具、器具及び備品	141	119
土地	*2 637	*2 639
建設仮勘定	151	410
有形固定資産合計	3,133	3,282
無形固定資産		
ソフトウェア	107	111
その他	5	6
無形固定資産合計	112	117

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	65	64
関係会社株式	895	936
関係会社長期未収入金		31
関係会社長期貸付金	312	392
繰延税金資産	254	267
その他	139	142
貸倒引当金	29	0
投資その他の資産合計	1,637	1,833
固定資産合計	4,884	5,233
資産合計	15,214	16,024
負債の部		
流動負債		
支払手形	68	35
買掛金	*1 862	*1 747
電子記録債務	1,334	968
設備電子記録債務	141	454
1年内返済予定の長期借入金	*2 914	*2 1,082
未払金	*1 199	*1 204
未払法人税等	40	132
設備未払金	84	60
その他	*1 301	*1 273
流動負債合計	3,947	3,959
固定負債		
長期借入金	*2 2,251	*2 2,360
その他	84	61
固定負債合計	2,335	2,421
負債合計	6,282	6,380

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	983	983
資本剰余金		
資本準備金	1,202	1,202
資本剰余金合計	1,202	1,202
利益剰余金		
利益準備金	97	97
その他利益剰余金		
別途積立金	3,510	3,510
事業拡張積立金	730	730
土地圧縮積立金	83	83
建物圧縮積立金	15	14
繰越利益剰余金	2,322	3,036
利益剰余金合計	6,759	7,472
自己株式	15	15
株主資本合計	8,929	9,642
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	1
評価・換算差額等合計	2	1
純資産合計	8,931	9,644
負債純資産合計	15,214	16,024

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	*1 11,996	*1 12,399
売上原価	*1 9,429	*1 9,208
売上総利益	2,567	3,190
販売費及び一般管理費	*1、*3 2,427	*1、*3 2,494
営業利益	139	696
営業外収益		
受取手数料	*1 26	*1 23
固定資産売却益	*1 10	*1 65
受取配当金	*1 215	*1 100
関係会社貸倒引当金戻入益		28
その他	*1 40	*1 55
営業外収益合計	292	273
営業外費用		
支払利息	7	11
為替差損	55	
支払手数料	33	
その他	3	0
営業外費用合計	99	12
経常利益	333	957
特別利益		
退職給付制度改定益	87	
関係会社株式売却益		53
特別利益合計	87	53
特別損失		
早期希望退職関連費用	170	
固定資産除却損		*2 59
特別損失合計	170	59
税引前当期純利益	250	951
法人税、住民税及び事業税	30	145
法人税等調整額	36	12
法人税等合計	6	132
当期純利益	256	819

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	983	1,202	1,202
当期変動額			
建物圧縮積立金の取崩			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			
当期変動額合計			
当期末残高	983	1,202	1,202

	株主資本						
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
		別途積立金	事業拡張積立金	土地圧縮積立金	建物圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	97	3,510	730	83	17	2,191	6,629
当期変動額							
建物圧縮積立金の取崩					1	1	
剰余金の配当						127	127
当期純利益						256	256
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計					1	130	129
当期末残高	97	3,510	730	83	15	2,322	6,759

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	15	8,800	2	2	8,802
当期変動額					
建物圧縮積立金の取崩					
剰余金の配当		127			127
当期純利益		256			256
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			0	0	0
当期変動額合計	0	129	0	0	129
当期末残高	15	8,929	2	2	8,931

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	983	1,202	1,202
当期変動額			
建物圧縮積立金の取崩			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			
当期変動額合計			
当期末残高	983	1,202	1,202

	株主資本						
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計
別途積立金		事業拡張積立金	土地圧縮積立金	建物圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	97	3,510	730	83	15	2,322	6,759
当期変動額							
建物圧縮積立金の取崩					1	1	
剰余金の配当						105	105
当期純利益						819	819
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計					1	714	713
当期末残高	97	3,510	730	83	14	3,036	7,472

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	15	8,929	2	2	8,931
当期変動額					
建物圧縮積立金の取崩					
剰余金の配当		105			105
当期純利益		819			819
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			0	0	0
当期変動額合計	0	713	0	0	712
当期末残高	15	9,642	1	1	9,644

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

製品・仕掛品

プローブカード等の受注生産品...個別法

その他見込生産品...月別総平均法

原材料...移動平均法

貯蔵品...最終仕入原価法

(3) デリバティブ取引により生じる正味の債権（及び債務）の評価基準及び評価方法

時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

リース資産以外の有形固定資産

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法）を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零（リース契約に残価保証の取決めがある場合は、当該残価保証額）とする定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産

リース資産以外の無形固定資産

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において「流動資産」の「繰延税金資産」247百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」254百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(1)(評価性引当額の合計額を除く。)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表関係)

* 1 関係会社に対する金銭債権債務（区分表示したものを除く）

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	1,268百万円	685百万円
短期金銭債務	53百万円	201百万円

* 2 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	476百万円	433百万円
土地	382百万円	382百万円
計	859百万円	815百万円

担保に係る債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	199百万円	483百万円
長期借入金	208百万円	391百万円
計	408百万円	875百万円

(損益計算書関係)

* 1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	3,734百万円	2,535百万円
仕入高	1,544百万円	1,917百万円
販売費及び一般管理費	7百万円	63百万円
営業取引以外の取引による取引高	270百万円	184百万円

* 2 固定資産除却損

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物	百万円	37百万円
解体撤去費用	百万円	22百万円

* 3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
役員報酬	94百万円	78百万円
給与及び手当	478百万円	488百万円
賞与	68百万円	88百万円
退職給付費用	17百万円	17百万円
福利厚生費	111百万円	121百万円
租税公課	49百万円	66百万円
減価償却費	23百万円	24百万円
研究開発費	1,144百万円	1,104百万円
雑費	195百万円	270百万円
おおよその割合		
販売費	5.3%	5.6%
一般管理費	94.7%	94.4%

(有価証券関係)

子会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	895百万円	936百万円

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
(1) 繰延税金資産		
未払事業税等	6百万円	15百万円
未払費用	39百万円	33百万円
たな卸資産評価損等	185百万円	221百万円
未払役員退職慰労金	12百万円	12百万円
投資有価証券評価損	80百万円	72百万円
関係会社株式評価損	15百万円	15百万円
減価償却限度超過額	14百万円	13百万円
繰越欠損金	538百万円	277百万円
その他	70百万円	62百万円
繰延税金資産 小計	964百万円	724百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額		269百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		144百万円
評価性引当額小計	665百万円	413百万円
繰延税金資産 合計	299百万円	311百万円
繰延税金負債との相殺	44百万円	43百万円
繰延税金資産の純額	254百万円	267百万円
(2) 繰延税金負債		
土地建物圧縮積立金	43百万円	43百万円
その他	1百万円	0百万円
繰延税金負債 合計	44百万円	43百万円
繰延税金資産との相殺	44百万円	43百万円
繰延税金負債の純額	百万円	百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった
 主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.5%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.4%	0.1%
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	25.6%	2.8%
住民税均等割等	2.5%	0.7%
税額控除	8.1%	2.8%
評価性引当額	15.3%	13.5%
タックスヘイブン課税	14.9%	%
その他	1.7%	1.7%
税効果会計適用後の 法人税等の負担率	2.4%	13.9%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)	期末取得 原価 (百万円)
有形固定資産							
建物	834	38	37	61	773	1,293	2,067
構築物	9	1		0	9	55	65
機械及び装置	1,360	397	6	421	1,329	2,905	4,235
工具、器具及び備品	141	51	3	70	119	2,218	2,337
土地	637	2			639		639
建設仮勘定	151	750	491		410		410
有形固定資産計	3,133	1,242	539	554	3,282	6,473	9,755
無形固定資産							
ソフトウェア	107	46		42	111	633	744
その他	5	49	48		6		6
無形固定資産計	112	96	48	42	117	633	751

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	熊本事業所	半導体検査用部品関連事業生産設備	59百万円
	熊本事業所	半導体検査用部品関連事業生産設備	59百万円
	熊本事業所	半導体検査用部品関連事業生産設備	53百万円
	熊本事業所	半導体検査用部品関連事業生産設備	34百万円
	本 社	半導体検査用部品関連事業生産設備	36百万円
建設仮勘定	三田工場	半導体検査用部品関連事業生産施設	333百万円

当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建 物	三田工場	半導体検査用部品関連事業生産施設	37百万円
-----	------	------------------	-------

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	38	2	37	3

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため記載を省略しております。

(3) 【その他】

決算日後の状況

特記事項はありません。

訴訟

特記事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とします。ただし事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載します。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 http://www.jem-net.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号にあげる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得をする権利
- (3) 募集株式又は募集新株予約権の割当を受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第59期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日） 2018年6月26日近畿財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第59期）（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日） 2018年6月26日近畿財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

四半期会計期間（第60期第1四半期）（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日） 2018年8月9日近畿財務局長に提出。

四半期会計期間（第60期第2四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日） 2018年11月9日近畿財務局長に提出。

四半期会計期間（第60期第3四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日） 2019年2月8日近畿財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書を2018年6月29日近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年 6月25日

日本電子材料株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 黒 川 智 哉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勢 志 恭 一 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電子材料株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電子材料株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本電子材料株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本電子材料株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年 6月25日

日本電子材料株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 黒 川 智 哉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勢 志 恭 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本電子材料株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第60期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本電子材料株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象に含まれていません。